

めざす児童生徒像

つよく やさしく かしこい子  
 【つよさ】 真の強さをもった子に  
 【やさしさ】 すべての人にやさしい子に  
 【かしこさ】 みんなでとことん考える子に

※児童生徒結果-教員結果-保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
学校重点項目 学校で取り組むべき領域 生徒指導	生徒指導	①②の項目について、肯定的回答をしている職員割合が平均90%以上 ③④の項目について、肯定的回答をしている児童割合が平均85%以上	① 生徒指導の3機能を活かした授業づくり、安心・安全な居場所づくりに努めている。	100			・③④の項目について、目標指数は達成することができた要因として、活動後の学年間をまたいだメッセージのやりとり、高学年と低学年との交流、学習活動や行事の際にめあてをたてて振り返りを行うことで自覚化をはかったことが良かった。 ・教員と児童アンケートで差があった原因として、児童が、良くなかった点を自覚し正直に答えたことが数値に出たと考えられる。	・よかったことは続けていく。 ・C、Dをつけた児童を把握し、個別に話を聞き、様子を見守る。 ・声かけのタイミングを大事にし、振り返りに対する肯定的なコメントをしていく。 ・良かった行動を具体的に認めていくことを大切にしていく。	
			② 児童の自己有用感を高め、共感的人間関係を育むように努めている。	100					
			③ 児童が「自分にはないところ、成長したところがある。」と実感している。	100	87.3	94.3			
			④ 相手の気持ちを考えた言動をしている。	94.1	91				
			集計						
重点項目 業務改善 業務改善意識の向上	業務改善意識の向上	①②③の項目について、肯定的回答をしている職員の割合が平均90%以上	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	70.6			・4～6月の時間外勤務時間は平均31時間であり、目標値(40時間)よりも少なく昨年度より減っている。しかし、80時間超えの職員がいることが課題であり、業務改善の意識はあるが、実際の時間外勤務時間の削減にはつながらないのが実情である。 ・業務改善の意識が定着しつつあるためか、特に意識して工夫をしなくても、仕事を切り上げ退勤する職員が増えてきたのかもしれない。	・継続して学習支援員、スクールサポートスタッフに授業準備、印刷、配布、環境整備等を依頼し、業務軽減を図る。定時退校ウィークについても、清掃と帯タイムを短縮した日課とし、早く業務を終えることができるようにする。 ・会議の日時設定を工夫して業務の効率化を図る。 ・時間外勤務時間が多い職員に対して、管理職が現状を把握し業務軽減の対応策を講じる。	
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができる。	100					
			③ 定時退校ウィークの意義を理解し、業務改善のために実践していることがある。	64.7					
			集計						
			集計						

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
重点項目 指導力の向上 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	学校研究	①②の平均が中間・・・85%以上 年度末・・・90%以上	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元(授業)構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	100			・調査項目①、②ともに、年度当初に今年度の研究の重点の確認と提案授業を行い、さらに、研究授業を1つ行ったことで、研究の内容や目指す授業スタイルの共通理解、共通実践につなげることができた。その結果、目標指数を上回ることができたといえる。	・2学期も、継続して計画通りに学校研究を推進していく。また、目指す授業の意識を、教師間だけでなく、教師と児童、児童同士でも高めるために、クラス間で授業を見合う「授業交流」の取組を行う。	
			② 授業研究では、教職員一人一人が研究の重点を意識して主体的に取り組んでいる。	94.1					
			集計						
			③ 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	94.1	89.2				
			④ 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。	82.4	89.2				
	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	①と④の児童割合が中間・・・80% 年度末・・・85%	③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	52.9	81.6		・①の項目では、教員児童ともに肯定的回答の割合が高くなっている。教員の授業づくりの工夫により、各学年で意欲的に学習に向かえる児童が多くなっている。 ・③の項目では、「児童が上手に伝わるように工夫して発表している」と感じている教員の割合が53%とかなり低い結果となっていた。また教員と児童の意識の差が28.7%と大きく開いていた。教員が児童に求める姿のイメージが曖昧なものではないかと考えられる。 ・④の項目では、教員側が低い結果となった。授業の中で、意図的に話し合う活動は設けているが、話し合う活動の内容の指導と児童の力がまだ不十分だという教員の意識が感じられた。	・①の項目では、2学期も引き続き、児童が「やってみよう！」と意欲的に取り組めるような、学習課題や学習活動を取り入れるよう、校内研修会等で先生方に呼びかける。 ・③の項目では、全校で取り組める「発表のコツ」を教室掲示し、発表するときは「上手に伝わるように工夫する意識」が持てるようになる。 ・④の項目では、2学期に実施する「授業交流」で、グループでの話し合い活動の様子を、授業を見る視点に設定し、子教員と児童の意識を高められるようにする。	
			④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達と自分の考えを共有し合う機会を「受け止めて自分の考えを伝える」。	64.7	87.3				
			⑤ 児童生徒は、振り返り活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	94.1	89.2				
			⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	100	93.4				
			集計						
重点項目 学力の向上 カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメント	①②③の平均が85%以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	100			・①②③の平均が92.2%となり、目標を上回っているものの、小中連携についてはポイントが大きく下回っている。 ・年度当初に見直しを行ったカリキュラムマップにもついて、教育課程を実施することができた。また、夏季休業中にカリキュラムマップの見直しを行い、改善点を修正し次年度に活かせるようにした。2学期の取組について、プログラミング学習や書く力を高められる教材の実施時期や関連する活動を確認し、見直しをもって教育課程を実施できるようにした。 ・全教職員で児童の実態改善に向けた共通実践の内容を検討し、決定した取組に対して必要感をもって実施できた。 ・松陽地区全体で取り組んでいくこととした算数検定の取組が進んでいない。	・夏季休業中に見直したカリキュラムマップにもついて、2学期も教育課程を実施する。改善点があった場合は、すぐに見直しを行う。 ・漢字・計算ドリルの進め方、誤答の書き直し方についても全校で取り組み方を共通理解し、実践していく。また月末に共通実践をチェックすることも継続していく。 ・算数検定を確実に実施するよう、教務主任を中心に担任への声掛け、サポートを強化する。月末に取組の進捗状況をチェックする。	
			② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。	82.4					
			③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	94.1					
			④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)	64.7					
			集計						
重点項目 家庭学習	家庭学習	①②の項目について、職員の平均が85%以上	① 家庭学習の取組として、学習方法や課題の課題方を校内で共通理解を図っている。	88.2	74		・年度始めに家庭学習の進め方について全校に指導した。保護者に向けても啓発を行った。しかし、宿題に対する意欲や必要感を十分に持たせているとは言えない。 ・毎週木曜日を学習用端末持ち帰りの日としたことで、取組が進んだ。キュビナやドリルプラネットなどの学習用アプリを利用したり、写真を撮影したりなど、児童が意欲的に学習に取り組めるように、各学年の担任が課題の出し方を工夫していた。 ・2学期のはじめに、再度児童、保護者に対して家庭学習の目的、取り組み方等について啓発を行う。 ・10月に家庭学習調べを実施し、その結果をできるだけ早く児童、保護者に知らせ、取り組み方の改善につなげる。		
			② 学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。	100	84.4				
			集計						